

## JAPANISCH-REDEWETTBEWERB 2024

### Beitrag von Torben STEGMÜLLER:

皆様もご存知だと思いますが、多くの欧米人にとって、日本人は非常に勤勉で完璧主義者であるとして知られています。音楽、学校、スポーツなど、どの分野においても特に基礎的な能力が高く評価されていますが、この振る舞いはしばしば無理やりな完璧主義として勘違いされます。しかし、日本のタクシー運転手が常に清潔にしている白手袋や、20時間煮込まれたラーメン汁に見られるのは完璧主義ではなく、「こだわり」なのです。

「こだわり」とは、プロセス自体やその細部への愛情や努力を込めること、あるいは、「完璧を追求する」という考え方を意味します。多くの場合、このこだわりは目に見えない潜んだものであり、茶道や生け花といった芸術のみならず、定食の盛り付けのような、日常生活の一部においても現れる現象です。芸術家たちは、お客様の期待に応えるという形より、自分自身の基準を設け、プロセスに対する自分なりの要求を持っています。

私が日本の「こだわり」に魅了された瞬間は、三重大学の留学中にコーヒーサークルで初めてコーヒーの淹れ方に触れたときでした。メンバーたちがフィルターコーヒーの細かなニュアンスを説明するのを見て、その驚嘆すべきプロセスに対する丹念なケアに感激しました。

それが私のコーヒー旅の始まりとなり、最終的には現在、焙煎所でバリスタとして働いていることにつながりました。

カフェでお客様に心の安らぎを提供することを決意し、私は毎日の課題として、お客様に笑顔を与えることを目指しています。まず、お客様の話を聞き、最も口に合うであろうドリンクを細心の注意を払って選び、エスプレッソとミルクを丁寧に用意し、最後に喜んでいただけるような模様をカップに描くことでお客様に笑顔になっていただきます。

ドリンクを心を込めて作り、常連客と一切言葉を交わさずにいつものオーダーを提供することは私にとって何よりも幸福な瞬間です。仕事で忙しく落ち込んだ表情が晴れて笑顔に変わるところを見て、コーヒーにこだわって頑張った甲斐があったと実感します。そのような瞬間では、私は生きているという気持ちに包まれ、私自身の「生きがい」を感じます。

つまり、日本特有のこだわりを経験することによって人生の新たな楽しさが見つかりました。むしろ、無意識に楽しさを感じていたことに最近意識的に気づきました。意識と無意識の対話から生まれるその生き甲斐という気持ちは、今没頭してい

る活動、今心がけているプロセスが「正しい生き方」だと教えてくれます。デジタル化が進んでいる中、私のように自分がどの道を歩めばいいか分からなくなる人は、少なからずいると思います。だからこそ、身体の微かな合図を見逃さず、自分が何をやって生き甲斐を感じ取れるかを理解するよう励まなければなりません。皆様も日常生活の小さなことに注意を払い、それらを丁寧に行ってみれば、気持ちは伝わると思います。植物の手入れや毎朝手挽きのコーヒーを丹念に淹れること、また古い愛車のマニュアルシフトなど、シンプルには見えるものの、精神を捧げれば、ものすごい喜びを見出せるものであると。そうして完璧を求めず、プロセスそのものに専念することによって生活の中に意味を見出し、心を踊らせてはいかがでしょう。

したがって、生活を少し減速することに意識を向けてみてください。日常生活の中、意図的に少し難しい道を選び、そこに意味のある小さな瞬間を加えることで、日本の「こだわり」だけが与えられる生活感覚を味わうことができると私は確信しています。